

全国から施工業者集う

エコジオ
工法協会 尾鍋会長 逆風の中、6%伸び

松阪市飯高町宮前の㈱尾鍋組と三重大学が共同開発した環境に優しい地盤改良技術「エコジオ工法」の施工業者でつくるエコジオ工法協会(事務局＝尾鍋組内、会長＝尾鍋哲也・尾鍋組代表取締役社長、58社)が6日午後4時から、同市高町の華王殿で2025(令和7)年度の「報告会」を開催。全国各地の42社から約70人が参加し、昨年度中の全国の施工実績の報告

と、同年度中の施工件数の多かった会社や、施工件数を伸ばした会社に対する表彰が行われた。同工法は、従来の地盤改良に使われるコンクリートや鉄を使わず、筒状に掘った穴に自然の碎石を詰めて押し固めるというもの。専用の装置は特許を取得し、21(同3)年度には特許庁の知財功労賞(知的財産権制度活用優良企業等表彰)で特許庁長官表彰を受けてい

る。事前に書面決議で行われた第14回通常総会の報告に続いて、尾鍋会長(63)があいさつ。「昨年度は約6%増加した。全国的に住宅の施工数が減っていく中で増えている」と強調し「全国各地でのセミナー開催やYouTube動画の制作・配信を通じてエコジオ工法の価値を積極的に伝え、今年も皆さんの営業活動をしやすくするよう情報発信していきたい」と語った。その後、協会事務局の大石新之介さん(37)＝尾鍋組技術マネージャー

「が協会の活動報告と全国の施工実績」と題して話し、昨年度の施工数が4465件で、施工が始まった2009(平成



尾鍋会長(前列真ん中)と全国から集まったエコジオ工法の施工業者ら
＝高町の華王殿で

改良事業部課長は「不動産鑑定士の検討結果の紹介」と題し、エコジオ工法で施工した土地を将来売却する際、「地価を下落させる可能性は(ゼロではないが)低い」とした。さらに協会顧問の建築士・神村真さん(54)＝合同会社for経営Ⅱが建築確認申請の審査項目の変更のポイントを解説。協会事務局の中村正則さん(57)＝尾鍋組地盤改良事業部統括部長Ⅱが、この日にYouTubeに投稿したばかりの最新のPR動画を紹介した。続く表彰では、PR動画にも登場した長崎県諫早市のサキタ技研㈱の崎田英介代表取締役社長(46)ら4社の代表に感謝状と松阪牛の肉が贈られた。施工件数の伸び率をたたえる躍進賞は、伸び率17.4%の㈱大雄工業(本社＝堺市)など2社に、年間施工件数では1366件の㈱サムシング(本社＝東京都)を筆頭に第5位までが表彰された。